

六、飛魚延繩漁業試驗

5. 大型フモノハ釣獲水深淺ク小型ノモノハ深シ。
6. 潮流ノ干満ニヨリ餌付ノ變化甚シ。

本縣ニ於ケル飛魚漁獲ハ専ラ流刺網ヲ使用スル爲漁具費高價トナリ經營上少ナカラザル負擔タリ依テ之レガ延繩ニ依ル漁獲ヲ試ミ小漁業者ノ經營並ニ着業ヲ容易ナラシメントシ宮崎縣ニ於ケル構成ニヨリ一〇鈎付五鉢ヲ用ヒ千島丸ニヨリ甲いカヲ餌料トシテ十二月十六日日本島南沖約七哩ニ於テ豫察察的ニ試ミタル結果ハ五〇余尾ノ漁獲ヲ擧ゲ極メテ良好ナル結果ヲ得タリ。

七、沿岸資源潛水調査

- (イ) 趣 旨 潛水器ニヨリ深部ニ於ケル介藻類ノ生育分布ノ状態ヲ調査シ沿岸漁業振興ニ資セントス。

- (ロ) 方 法 千島丸ニエアークンプレツサヲ取付ケマस्क式潛水器ニヨリ七、八月ノ候本島久米

島慶良間等ノ沿岸ノ主トシテ高瀬介廣瀬介サソエ等ノ重要貝類漁場ニツキ之等ノ棲息場タル珊瑚礁ノ存在スル深度迄(大体四十尋迄)調査シ貝類中一部ハ標識放流ヲ付シ移動成長度等ヲ調査資料トシ藻類ハ一部水産講習所ニ送付岡田喜一氏ニ檢索ヲ

付シヒタリ。

(ハ) 成績ノ概要

- 1、水深一五米以淺ニ棲息シ三米乃至五米ニ最も多ク産業的ニ採捕セラル
、アルハ此ノ範圍ニテ最多層ニテ三〇平方米ニ一ケ位ノ割合ナリ。棲息場ニ穴
多キリーフノ穴中ニシテ生長限度ハ口徑五厘米程度ナリ、干満潮線附近ニ稚貝ヲ見
ル。
- 2、たかせ、貝一五米以淺ニ棲息シ一〇米乃至一二米ニ多クレドモ一般ニ少ナク此
ノ單獨採捕ハ産業的ニ成立セズ棲息場ハ、リーフノ層ヲナシタル間カ又ハ崖ヲ爲
シタル下側ニシテ生長限度底徑一二厘米程度ナリ。
- 3、ひろせ貝一五米以淺ニ棲息シ三米乃至五米ニ比較的の多ケレドモ前者全様少ナク
單獨ニテハ採捕業成立セズ。棲息場ハさゞるニモたかせ貝ニモ類似ス。
- 4、まべ貝、眞珠養殖用母貝トシテ本縣ニ於テ最も重要セラレ二十米乃至三十米水
深ノ泥分多キ内礁帯ニ棲息スレド少シ
- 5、藻類ほんだわら類ハ海深六米以淺ニ止リ相當密生スレドモ水平的ノ範圍狹シ
最モ着生範圍廣キハゆかり及びほそばなみのはなニシテ海深五米乃至六〇米ニ及び
水平的ニモ分布廣汎ナレドモ最少シ、而シテ海深一五米附近最も多ク大サハ普通
五厘米ナリ。之レニ次ギふたへあふぎニシテ一〇米以下六〇米ニ及び水平的ニモ分

布廣汎ニシテ礁面ニ密生ス。所少ナルラス

6、うに及なまこ、うにハ棘長々紫うにニシテ四〇米以淺ニ分布シ五米乃至二〇米最モ多ク且大ナリ。ウーフノ穴崖下又ハ層等ノ奥深クヒソム、なまこ、しやのめなまこ最モ多ク二〇米以淺ニ棲息シ一〇米乃至二〇米最モ多ク泥分多キ海底ニアル礁ノ裾部ニ多シ之ニ次ギ礁ノ凹部砂泥等ノ濁レル處ナリ。

八、海洋調査

(イ) 趣 旨 本縣近海ニ於ケル海況推移ノ狀況ヲ知り之ガ漁況變化ヘノ影響ヲ研究シ漁況豫察ニ資セントスル前年度以來ノ繼續事業ナリ。

(ロ) 横斷觀測 圖南丸ヲ以テ四、八、十一、三月ノ四回那覇港外先原崎北西二〇〇浬ノ協定線ヲ施行シ之レヲ一般當業者ニ通報セリ。

(ハ) 定点觀測 千島丸ヲ以テ毎月一日、十五日ノ二回本島南端喜屋武崎南五浬ノ定点ヲ觀測シ之レヲ一般當業者ニ通報セリ。

九、漁撈技術普及及改良講習會

(イ) 漁業者ノ漁撈技術上ノ科學的向上ヲ圖リ之レガ素質ノ改善ニヨリ經營ノ合理化ニ資セントスル前年度以來ノ繼續事業ナリ。

(ロ) 期間及ビ場所